

科目名	期別	単位数	開講年次	担当教員名
(新) 環境法 (旧) 環境訴訟	前期	2単位	(標) 2年 (既) 1年	檜澤 秀木

授業目的	この講義では、環境法全般について概説する。また必要に応じて国際環境法に言及することもある。授業の前半部分では、環境法総論を、後半部分では、各論を説明する。		
達成目標	環境法の制度について概括的知識を得ると共に、それらの諸制度が社会的動態のなかでどのように動いているかを知る。		
授業計画と予習事項	回数	各回タイトル	授業内容、予習基本事項
	1	オリエンテーション	環境法および環境法学のおおまかな見取り図を示す。
	2	環境法の生成 1 (公害対策)	環境法を理解するためには、その歴史を知っておかなければならない。この時間は、主に公害対策の時代について、ビデオを見せて、問題提起を行う。テキスト p.1-19
	3	環境法の生成 2 (環境保全)	この時間は、環境法が環境保全の法へと転換していく過程を調べる。p.19-28
	4	環境法の基礎 1 (環境権)	主に、「環境権」と「環境保全の主体」について議論を行う。29-49
	5	環境法の基礎 2 (予防原則)	環境法における新しい考え方である、「予防原則」について説明する。プリントを事前に配布する。
	6	環境法の基礎 3 (さまざまな規制手法)	環境保全の諸手法を説明する。p.49-68
	7	大気汚染と水質汚濁の規制	大気汚染防止法と水質汚濁防止法について説明する。171-204
	8	その他の公害規制と化学物質規制	騒音・振動などの公害規制法と化学物質規制法について学ぶ。204-246
	9	環境アセスメント	環境アセスメント制度について説明する。158-169
	10	主な環境条約	環境条約について、概略を説明する。とりわけ、ワシントン条約とラムサール条約、地球温暖化防止条約を取り上げる。
	11	廃棄物とリサイクル 1	廃棄物処理法制について、説明する。p.246-270
	12	廃棄物とリサイクル 2	リサイクル法制について説明する。p.246-270
	13	公害・環境紛争と裁判	公害・環境紛争の概略を説明する。p.349-389
	14	公害・環境紛争と裁判	公害・環境紛争の概略を説明する。p.349-389
	15	自然環境の保全と費用負担	自然環境保全を現実化するためには、誰がどのような根拠で費用を負担するか、ということについての検討が必要である。p.331-347
授業方法・予習上の留意点(各回指示以外) 自習事項	テキストの次回授業分を読んでおくこと。		
評価方法と評価基準 (期末試験、レポート、ディベート等)	受講時に随時行う小テストの成績を30%、期末テストを70%とする。授業の出席では加点しないが、遅刻・欠席では減点する。さらに、特にすぐれた発言や質問をした者には加点する。		
テキスト	阿部・淡路編『環境法 (第3判補訂判)』有斐閣		

独自教材	
参考書 (3～5冊)	松村弓彦他著『ロースクール環境法(第2判)』成文堂、大塚直『環境法(第2判)』有斐閣、北村喜宣『産廃判例を読む』環境新聞社、北村喜宣『環境判例が解る』環境新聞社、淡路・大塚・北村編『環境法判例百選』有斐閣